

学校敷地を活用した公園整備

■旧さくら小学校敷地周辺の特徴

- ・近接して既存の大宮中央公園（一時避難場所）が立地
- ・近隣に保健センターやコミュニティ体育館などの公共施設が立地



■整備課題

- 既存の大宮中央公園との機能分担
- 防災性(▲)の向上

■新しい公園についてのアンケート調査結果概要

- 利用方法 1. 散歩(●) 2. 子供や孫（未就学児）と遊ぶ(●) 3. 軽い運動(●) 4. ピクニック・花見 5. 休憩
- イメージ 1. 安心して遊べる(▲) 2. 緑や自然(●) 3. 散歩(●) 4. 快適に過ごせる 5. ボール遊び
- 求める施設 1. 休憩施設(■) 2. 防犯設備(▲) 3. 手洗い(■) 4. 防災施設 5. 遊具（3～6歳）
- 必要ない施設 1. モニュメント 2. 駐車場 3. 大型遊具 4. ボール遊び 5. 飲食店

方向性 憩いの場としての機能に重点を置く

■「休憩施設」「手洗い」「日陰」

→屋根付きの休憩施設（東屋、樹木を利用したテント）を設置する。トイレを含んだ屋根付きの建築物も検討。

⇒パーゴラ・ウォールベンチ、芝生広場ゾーンの樹木にテント、管理事務所

▲「防災性」「防犯設備」「安心して遊べる」

→防災機能として空地や施設（かまどベンチなどを設ける）。防犯性を持たせるために死角をなくす。

⇒芝生広場ゾーン（空地）、遊具ゾーン（見通しの良い配置）

●「散歩」「未就学児と遊ぶ」「緑や自然」「軽い運動」

→緑と散歩を楽しむことをメインに、園路になじむようなカタチで未就学児向け遊具や健康遊具を配置。

⇒緩やかな傾斜・周遊性のある園路と健康遊具、傾斜を利用した遊具